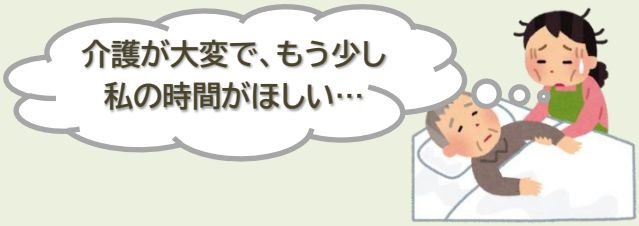
医療法人徳洲会 庄内余目病院

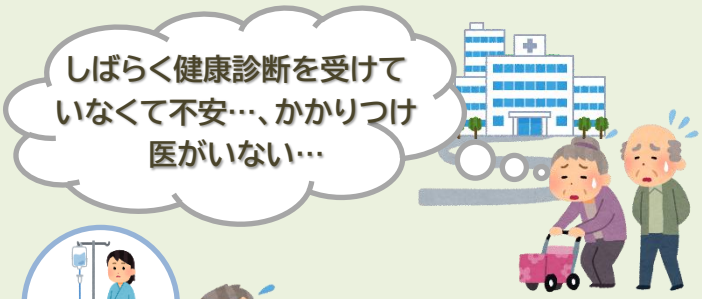
地域包括ケア病棟のご案内

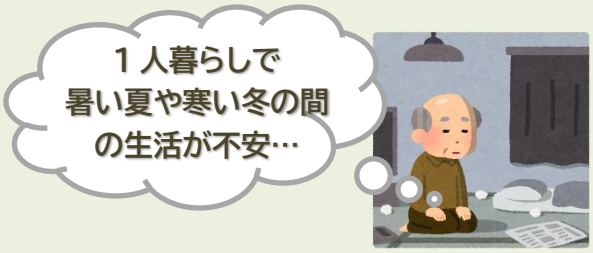
地域包括ケア病棟では、急性期治療後すぐに自宅や施設へ退院するには不安のある方、自宅や施設で病状が悪化し一時的な治療を受ける方、レスパイト入院（介護者の一時休養）の方など、介護度や疾病を問わず様々な方を支援し、在宅復帰に向けて医療処置や診療、看護、リハビリテーションを行っています。（3 階東病棟：45 床）

＼在宅介護や施設利用時のこんな悩み、ご相談ください／











こんな医療処置にも対応できます！

経管・経鼻栄養、医療用麻薬の管理、褥瘡（床ずれ）処置、気管切開、点滴（IVH：高カロリー輸液を含む）、人工透析、インスリン療法、BiPAP 等の人工呼吸器や在宅酸素 等

《入院に関して》

最長 40 日です。原則月曜～金曜の平日入院となります。

《入院までの流れ》

医療相談室へ連絡（患者さんの状態等を確認します）
→ 入院申し込みシートの記入※（紹介状の提出）
→ 当院で検討 結果連絡（頂いた情報をもとに受け入れを検討します）
→ 外来診察 → 入院

※担当ケアマネジャーに記入していただきます。入院申し込みシートは病院ホームページよりダウンロードをお願いします。

【お申し込み、お問い合わせ先】

庄内余目病院 医療相談室までお電話ください。☎0234-43-3434（代表）

※お電話を頂くのは、ご本人やご家族の方、担当ケアマネジャー、かかりつけ医院からでもかまいません。入院を希望される方の状態によっては、外来受診をして頂く場合もございます。（家族のみの受診もあり）また、一般病棟で経過観察後に当病棟へ入院となる場合もございます。

《裏面》地域包括ケア病棟 当院での入院事例もご覧ください。

当院での入院事例

【介護者の休息のためのレスパイト入院】（70 代男性・指定難病）

66 歳で神経難病と診断され、現在はすべての動作に介助を要する状態に…。食事が十分にとれず点滴を投与していることや膀胱留置カテーテル管理が必要なことから、宿泊サービスが利用困難な状況でした。当病棟には、主な介護者である奥様の休息や介護負担軽減（レスパイト目的）のために入院。入院後、食事形態を検討したところ、摂取量も安定し点滴なしで経過しました。

自宅でも継続できるよう、奥様に栄養指導を行い、約 1 か月後に退院されました。



【主介護者不在でのレスパイト入院】（80 代ご夫婦・要介護 1）

ご夫婦とも要介護 1 を受けており、部分的な介助が必要な状態でした。また、旦那様はアルツハイマー型認知症で、奥様がいないと不安で行動が落ち着かなくなるため、同じ日にデイケアやショートステイを利用していました。

介護者のご家族が孫の出産のために不在となるため、ショートステイを探しましたが希望に沿う利用先が見つからず、当病棟へご夫婦でレスパイト入院となりました。夫婦同室で利用され、安全に入院生活を過ごされました。



【夏・冬の体調管理のための入院】（80 代男性・独居）

奥様は他界され娘さんも関東方面で生活をしており、独居生活を送っていました。デイサービスとヘルパーを半日利用し、自宅での日常生活はおおむね自立されていました。

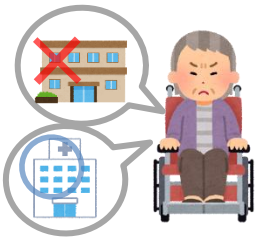
ただ、夏の暑い時期と冬の寒い時期に体調を崩しがちだったため、体調管理を目的に夏期と冬期にレスパイト入院を利用していただいています。



【施設のショートステイを拒否し、入院】（90 代女性・要介護 2）

要介護 2 の女性の方で、介護者であるご家族が結婚式参列のため自宅を数日不在にする予定がありました。はじめはショートステイの利用を考えていましたが、本人が施設へ行くことを強く拒否をし、利用が難しい状況でした。

病院に入院することには抵抗がなかったため、当病棟に 5 日間のレスパイト入院となりました。



【在宅での看取り】（80 代女性）

長男家族と同居中の方で、自宅の階段から転落し当院へ搬送されました。搬送時は頸部の骨折と肺炎がありそのまま入院に。その後、肺炎は改善しましたが、食事がとれない状況になりました。

ご家族からは、胃ろうはせず自宅での看取り希望がありました。そのため、ご家族にオムツ交換、口腔ケアや吸引方法などを指導し、退院準備を進めました。訪問診察・看護などのサービス調整も行い、40 日間で退院されました。



【在宅介護までの準備】（70 代女性）

寝たきりの方で、奥様が主に介護を担当されていました。自宅での食事が困難になり、他院で胃ろうを造設。その経管栄養に必要な手技を練習するために当院へ転院されました。

介護は奥様と同居中のお嫁さんも行うことになり、経管栄養の注入やオムツ交換の方法を指導しました。二人とも最初は慣れない様子でしたが、繰り返し指導を受け、手技を覚えていただきました。その後、在宅介護の準備ができ、退院となりました。



2026/10/1 改定